

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = トルコ中銀・南ア中銀の政策金利発表に注目

2021年1月18日

今週20日にバイデン氏が大統領就任式を行い、正式に第46代米大統領に就任します。バイデン新大統領は14日(日本時間15日朝)に、1.9兆ドル規模の追加経済対策方針を示すなど、新型コロナウイルスの感染拡大で傷んだ米経済の再生に強い姿勢を示しており、市場ではリスク選好の動きが継続することが期待されています。

ただ、こうした大規模な経済対策の財源となる国債発行の拡大が、景気が上向いた際のインフレ圧力となるため、債券利回りの上昇を招きます。リスク選好のドル売りと米債利回りの上昇を受けたドル買いが交錯する中で、どちらの勢いが強まるかは慎重に見極めが必要です。

米国以外の材料としては、各国中銀の金融政策発表があげられます。今週は主なものだけで20日にカナダ中銀、21日に日銀、トルコ中銀、南ア中銀、ECBの金利発表が予定されています。

中でも注目はトルコ中銀と南ア中銀です。

トルコは高金利に否定的であったエルドアン大統領が昨年11月に方針を転換。エルドアン大統領の下で同国にとっては低い金利水準で政策を運営してきたウイサル中銀総裁を更迭、翌日にはアルバイラク財務相が辞任と、当局者二人を交代させ、アーバル元財務相を新たに新総裁に任命しました。アーバル総裁の下で11月、12月と二会合連続での大幅利上げが実施され、政策金利は利上げ前の10.25%から17%まで引き上げられました。

トルコのインフレ率(消費者物価指数前年比)は直近12月分で14.6%ですので、長い間実質金利がマイナス(政策金利がインフレ率よりも低い)となっていた状況が改善されています。

もっとも消費者物価指数は11月の14.03%から上昇傾向が継続しており、物価の安定を目指す総裁としては厳しい状況。市場では据え置きに回るか小幅ながら利上げに向かうかで意見が分かれるところとなっています。

大勢の見通しは金利据え置きとなっていますが、トルコでの新型コロナウイルスの感染拡大の落ち着きが利上げ期待につながっています。12月には一日当たり3万人を超えていたトルコでの新規感染者数は年明け1万人を割り込む状況となっており、物価安定のために利上げをする余地があるのではとの思惑につながる形で利上げ期待も根強く残っています。

市場の見方が分かれている分、結果が据え置き、利上げどちらになったとしてもそれなりの反応が期待されることです。

南ア中銀は2019年7月からの利下げサイクルが、新型コロナウイルスの感染拡大で加速。3月に6.25%から5.25%へ引き下げた後、4月以降も利下げを続け、7月24日の会合での5会合連続利下げにより現行の3.50%まで金利を引き下げられました。

9月17日の会合で2020年初となる金利据え置きを決定。ハニヤホ南ア中銀総裁は経済成長と物価上昇のリスクが均衡している、当面利下げは予定していない、2021年終盤には2回の利上げが実施される見込みと発言しました。

11月の会合で二会合連続の金利据え置きを決めた後となる今回の会合ですが、以前の総裁の発言通り金利が据え置かれるという見通しが大勢となっているものの、一部で利下げの期待が出ています。

南アフリカではここにきて新型コロナウイルスの感染拡大が深刻に。英国で広がる感染力の強い変異種以上の感染力があるとされる南ア型の変異種による感染拡大が見られ、今年に入って一日当たりの新規感染者数が2万人を超える日が続いています。

南ア政府は先月夜間の外出禁止令を含む厳しい行動制限の強化を実施しましたが、状況の改善はまだみられていません。

同国での新型コロナウイルスワクチンの接種開始はまだ先と見られ、状況の改善はかなり時間がかかると懸念されています。

こうした状況から南ア中銀ももう一段の緩和に向かわざるを得ないのではとの思惑が広がっています。ただ、最新11月分の南アのインフレ率(消費者物価指数前年比)は3.2%と政策金利よりもわずかに低だけの状況。実質金利のマイナス化は避けたいところだけに、下げ余地もあまりありません。

今回は据え置きにとどめ、経済成長見通しの引き下げなどを含め今後の利下げの可能性を示唆する程度に収まる可能性もあります。

大勢の見方は据え置きだけに、利下げが実施されるとランドの急落もありそう。今後の利下げ示唆でもランドが重くなりそうです。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行(旧ナショナルウェストミンスター銀行)移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ(現ミンカブ・ジ・インフォノイド)グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。(社)日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。